

リフレクションカード 2019年度前期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学 I	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>助産学教育の全科目の基盤になる科目であるため、十分な説明と助産師としてのアイデンティティの基礎が築けるよう講義を進めている。昨年も学生の成績はよく、助産師としてのアイデンティティの基礎は築けたが、今年度も役割は果たせた。授業の準備として課題を出し、学生は課題をした上で授業に臨むようにした。また、授業後も課題を提出し、学生が自分で調べるといったことも実施した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は平均点78点であった。助産学別科のカリキュラムがあまりに詰め詰めなため、学生さんはなかなか予習復習ができない状況である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>シラバスに示してあるDPとの位置づけ、配点に従って実施した。国家試験の出題基準も念頭に入れ実施した。内容的には妥当である。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>助産学教育の全科目の基盤であるため、構成は変更しないが、学生が一方的に受け身にならず、もっと積極的に発言できるような授業展開を目指すつもりである。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>概ね達成できた。学生が積極的に発言できるよう工夫をしたい。</p>
-------------------------------	--------------------------------------

リフレクションカード 2019年度前期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅱ	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産別科は全員が資格取得を目指している。受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」31.3%、「単位数を確保する」が6.3%であった。本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。また、本科目は理論領域であり実習や専門科目を支援する基礎科目である。</p> <p>②技術演習(医師が担当)では、超音波検査の演習を行っている。現在、ほとんどの病院やクリニックで、妊婦健診の際、医師外来および助産師外来で超音波検査を実施している。実習を考慮し、より実践に近い授業の組み立てを行っている。</p> <p>③基礎的な病態生理や症例の実際を視覚的にもわかるように講義資料の工夫などを行い、学生の理解に努めている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点は75点であり、再試対象者は1名であった。標準レベルに達した学生は9名、理想的レベル(概ね80点以上)に達した学生は5名であった。「基礎助産学Ⅱ」は、男女のリプロダクションに関する形態・機能、疾患および治療についての講義内容であり、理解した内容を「説明ができる」ことを目標としており、基礎科目ではあるが、専門性のレベルは高いといえる。</p> <p>学生による授業評価の到達度自己評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点において、平均値は3.9～4.1点。中央値は4.0点。学習量の評価の予習・復習時間において、「授業に参加するために30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」で「1～6回」と回答した学生は、94%、「授業を振り返るために、30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「1～6回」と回答した学生は88%であった。本科目を理解するためには、予習・復習が必要であると考える。このことが目標達成にも影響していると考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、必須である。専門科目につながる学習の基盤であり、内容的には助産師として必要な知識である。学習到達度の自己評価の項目では、平均値3.6～4.1点(3項目において4.0以上)であり、学生も一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考える。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 受講動機は、「必須科目である」が100%、「資格取得に必要である」が31.3%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に取り組んでいた。また、成績においてもほとんどの学生が、標準レベルに達しており、内容的には妥当性であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性については問題ないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮した。「授業の質の評価」では、5つの項目において、平均値3.8～4.1点、中央値4.0点の評価を得ることができた。「学習量の評価」では、約90%以上の学生が30分程度以上の予習(準備)・復習を行っていた。授業以外に学習に取り組んだ学生は43%であった。「学修のための情報利用」では、88%の学生がシラバスを参考にしており、31%の学生が授業の計画を立てている。「図書館、インターネット利用」では44%の学生が図書館の図書や雑誌を利用している。以上の状況をふまえ、引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。また、学生の自由記載の意見として、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習としては、「予習を行った」「教科書、プリントのわからない用語について調べた」などの意見があった。授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「ほかの授業と重複している課題があったから」「時間がない」などの意見があった。他教科との課題の調整などを考慮しても、助産別科の授業は集中講義であるため、どうしても課題等が重なることがある。学生がより余裕をもって、授業の課題に取り組んだり、準備をしやすいうように、事前に講義資料を配布するなどの工夫を行っていきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は助産の実践領域の専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより、到達度自己評価は、10項目の平均値3.5～4.1点、中央値は9項目で4.0点であった。成績より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、多くの学生が予習や復習を行っており、学生の努力がうかがえる。今後、学生が学習時間の確保ができるように引き続き、他教科と調整を図るとともに、基礎科目として持続的に学習に取り組めるよう支援していく。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	助産別科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母子の心理・社会学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の受講動機は「必修科目である」93.3%、「資格取得に必要である」20.0%、「単位を確保する」6.0%であり、「関心のある内容である」は0%であったため、受講に対する動機づけはあまり高くないことが判明した。本科目は助産別科の基礎科目に位置づけられているため、まず女性がライフサイクルの中で乗り越えるべき発達課題について解説した。一方で1年後に助産師として出会う妊産婦とその家族を理解し支援するために、周産期に女性と家族が直面する問題やリスクを紹介し、その心理的プロセスについて解説することを心掛けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は75.00(±3.74)と標準的な数値を示していた。学生の自己評価はrange3.7-4.1であり、受講の動機づけが低かった割には標準より高めの評価であり、本科目の目標を達成できたと言える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は助産別科の基礎科目に位置づけられており、その内容は学科のDP1、DP2、DP3に対応している。またCPとも合致した内容となっていると考えられるため、内容的に妥当性であると言える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は助産別科の中では基礎科目に位置づけられており講義の形式をとっているが、限られた時間の中で親役割や母子関係・父子関係のプロセス、青年期～老年期の発達過程、周産期における女性と家族の心理など、教授するテーマは多岐にわたっているため、授業時間内に学生同士の話し合いの時間や質疑応答の時間を設けることは難しかった(授業の質の評価指標の中で、本テーマに関する対応項目の評価は3.7,3.8であった)。疑問があれば、研究室に質問に来るように促したが、実際に来た学生はいなかったが、授業の合間に質問に来る学生がおり、学生間で関心の高さに差があることがうかがえた。助産別科の先生と話し合いをしなければならぬが、教授内容を厳選し、感想を書く時間を設ける事が可能かどうか検討していきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>成績や学生の到達度に関する自己評価から、本科目の目標は達成できたと考えられる。質の向上については、教授内容を厳選することが可能かどうか、別科の先生と話し合いながら検討していきたい。</p>
------------------------------	---

学科	助産別科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母子栄養学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①母子栄養学は、周産期の健康教育において重要視される妊婦、授乳婦の食事管理、栄養管理について学ぶ必修科目の1つである。よって学生全員100%が受講動機に「必修科目である」を挙げている。「関心のある内容である」が6.7%と低いことに関しては、助産別科での開講ということもあり、専門の科目ではないので、妥当な数値と評価できる。推測ではあるが、本科目に関心を抱き受講する学生の多くは、周産期看護の実務経験を持っており、妊産婦における食事や栄養の重要性を本科目受講前から理解していることが考えられる。本科目の講義を受講した結果、助産別科生が周産期における食事の重要性を理解し、関心をもち、将来的に活用することが出来る授業内容にするよう、努力していく必要がある。</p> <p>②栄養学科同様、スライド資料を作成し配布した。資料には板書を書き写すことのできるスペース等も設けた。</p> <p>③学修準備性に関しては、約31%の学生が予習を一度もやってないと回答している。復習は50%が最低でも1回は行っていた。昨年度、助産別科の学生に対しても、予習課題や復習テストの導入を検討する必要があると考えていたが、全8回の実習を含めた講義回数では、テストを導入する時間はなく、また助産別科の学生にとっては、専門の科目ではないので予習復習課題を出すことはしなかった。但し、助産別科で学ぶ間(修了後も)に母子の栄養に関する質問があればいつでも受け付けることにしている、今後もそのようにしていく。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された		

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)に関しては、定期試験結果および実習時の課題から評価した。試験結果は16名の受講生中、A(秀)が43.8%、B(優)が43.8%と多く、C(良)6.3%であり、秀および優の割合がとても多かった。母子栄養学の理想的レベルの学生(助産別科では概ね80点以上を理想的レベルとみなす)は、AおよびB評価の学生であり、87%以上に及んだ。受講生全員が標準的レベルには至っており、うち理想的レベルが9割に近いことは、結果として本科目受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断が高いだけに限らず、本科目の該当DPに設定していない意欲関心や技能表現に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、約30%の学生が予習を一度もしていなかった。今後は助産別科の他教科との関連を含めて予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生がほとんど居なかった。特に図書館の利用に関しては、指定図書を紹介など講義でおこなっているものの、書籍を使つての課題等は出題しておらず、図書館活用も視野に入れた課題設定をしていく必要がある。ただし、助産別科生に対し、栄養学分野のみでの課題設定は厳しいことも考えられるため、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要がある。</p>
---	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価では、30%の学生が予習を一度もしていないと回答した。理由としては、「他の科目や実習課題で忙しかった。」等が自由意見にあがっており、助産学を専門とする学生たちに、栄養学課題の負担はあまりかけたくないという担当の気持ちもあるため、上記記載のように(目標達成状況)、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要があると考えている(例:長時間の陣痛、分娩時の栄養補給等)。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は75%と高かった。ただしシラバスを参考にした学生のうち「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答している学生は少ないため、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく必要がある。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。また、学生の意見の中に「講義内容が盛りだくさん」という意見があった、この意見は、毎年頂いている。講義回数が8回という関係上、周産期に限らず、幼児期、思春期および更年期の栄養学の知識も教授していかねばならないため、講義回数増も含め、助産別科教員と検討して対応していく予定である。また、「楽しく講義を受講できた。」との意見も多く、他分野の学生でも楽しく聞けて、今後の仕事に活かすことが出来るような講義を続けたいと考えている。また、今年度は学外の実習先から、献立課題を課された学生もいた。助産の学生にとって、献立作成は難しいと考える。このサポートも出来る限りやっていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。また現代においては、助産師による妊産婦に対する食や栄養に関する知識の教授の必要性は高い。学生の到達度評価と試験結果から2つのDPは達成できていると考える。必修科目ながらも、今後も助産別科生が本科目の内容に興味をもち、社会で活用できる栄養の知識をつけることが出来るように、学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産診断・ケア学については学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」31.3%、「関心のある内容である」「単位数を確保する」がともに6.3%であった。本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。</p> <p>②例年同様、講義開始前に復習と知識の確認のため、母性看護学の確認テストを行った。本科目では、母性看護学の知識をベースに助産の専門知識が積み重ねられるため、既に持っている学生の知識を整理しながら、主体的に学ぶことができるように、課題を提示し、それに組み合わさって講義を進めていった。学生自身が自ら考え、意欲・関心が得られるようにグループディスカッションや発表を取り入れるなどの工夫をした。</p> <p>③演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において、必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、演習内容に妊婦と助産師役、第三者の視点も含めロールプレイを行い、ケアに結び付けられるよう演習を組み立て取り組んだ。また、演習後は、観察したことをアセスメントし、体験を通して考えたこともふまえレポートにて振り返る機会をもった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	やや達成された	達成された		達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は85点であり、再試験対象者は0名であった。14名の学生が理想的レベル(概ね80点以上)に達しており、2名の学生が標準レベルに達していた。DPの目的別にみると、知識・理解に関しては73%、思考・判断に関しては80%、技能・表現に関しては80%の達成度と、思考・判断、技能・表現に関する点数が高かった。</p> <p>学生による授業評価の到達度自己評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点、技能表現の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。平均値は4.0～4.3(点)、中央値はどれも4.0(点)であり、概ね肯定的な評価であった判断するためにどのような知識や技術が必要であるかを把握し、根拠をふまえアセスメントする力が必要であるが、事例を用いて演習することや演習後のレポートの作成によって包括的にとらえられたと考える。一方、知識・理解については、標準レベルであったため、確実に知識・理解を定着させるため、小テストを行うなど次年度の課題としたい。「自分なりの目標を達成した」という項目においての平均値は3.8点であり、学生自身は妊娠期という専門分野において、自分なりの目標を達成を概ねできていると考える。今後は、学生が知識理解をしっかり身に付け、演習に取り組めるよう関わっていく必要がある。また、図書館の利用に関しては、88%の学生が「図書館の図書、雑誌を利用した」としており、引き続き学生が主体的に学習できるようサポートを行っていく必要がある。</p>
--	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解、思考判断のほか技能表現、態度も含めた講義は必要である。学習到達度の自己評価の項目では、平均値3.8～4.3点(9項目において4.0以上)であり、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 受講動機は、「必須科目である」が100%、「資格取得に必要である」が31.3%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に取り組んでいた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であると考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性については問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めていった。「授業の質の評価」では、5つの項目において、平均値3.9～4.3点、中央値4.0点の評価を得ることができた。「学習量の評価」では、95%以上の学生が30分程度以上の予習(準備)・復習を行っていた。「学修のための情報利用」では、85%の学生がシラバスを参考にしており、37%の学生が授業の計画を立てている。「図書館、インターネット利用」では88%の学生が図書館の図書や雑誌を利用している。以上の状況をふまえ、引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。また、学生個々の理解度なども確認したうえで、助産ケアに必要な援助技術を習得できるように援助していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより、到達度自己評価は、10項目の平均値3.8～4.3点、中央値4.0点より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、96%の学生が予習や復習を行っており、学生の努力がうかがえる。さらに、学生の知識理解が向上していけるように課題を含め、講義・演習等の工夫をしていきたい。</p>
------------------------------	---

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産診断・ケア学については学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」30.8%、「関心のある内容である」「単位数を確保する」がともに7.7%であった。本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。</p> <p>②本科目は、母性看護学の知識をベースに助産の専門的知識がより必要となるため、スムーズに講義に入れるように事前に課題を提示し、それに取り組んだうえで講義に臨むよう促していった。前半は主に分娩期の生理・分娩経過に伴う産婦や胎児の変化、支援方法についての講義を行った。学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるようにDVD視聴や模型を使用し、グループごとに主体的に考える機会を取り入れるなどの工夫した。後半は主に演習を行ったが、演習内容を事前に提示し、自己学習を行ったうえで臨むようにした。産婦人科ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準にそって、また科学的根拠を持って、技術を実践できるよう意識づけを行った。</p> <p>③実習において、必須である分娩助産やそれに伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、事例を用いての演習を組み立てて取り組んだ。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された	やや達成された		やや達成された

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は72.5点であり、再試験対象者は0名であった。2名の学生が理想的レベル(概ね80点以上)に達しており、12名の学生が標準レベルに達していた。DPの目的別にみると、知識・理解に関しては87%、思考・判断に関しては74%の達成度であった。思考判断では、基本的知識を応用していく必要があり、理解が十分でなかったことを示している。様々な場面をイメージする力をどのように獲得していくかという課題を捉え、次年度に向けて検討したい。また実際には、今後の実習を通して経験と時間が必要と思われるため、実習を通して思考・判断を深めていくことを期待したい。また、技能・表現に関しては72%の達成度であった。DVDを視聴しながら、また教員のデモンストレーションを見学しながら、分娩進行の情報を捉え、アセスメントし、必要なケアを考え実施することを繰り返し行った。内容的に専門的知識と思考判断を統合していく難しさもあり、学生の発言等に関して積極性に欠けた部分があった。</p> <p>学生による授業評価の到達度自己評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点、技能表現の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。平均値は4.0～4.4点、中央値はどれも4.0点であった。学生自身は分娩期という専門分野において、自分なりの目標を達成できている(4.1点)と考える。態度においてはすべての学生が真剣に取り組んでおり、93%の学生が予習・復習をこなしていた。今後は、学生自身が自分の知識理解において自信を持って、演習に取り組めるよう細やかなサポートを行っていく必要がある。</p>
--	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解、思考判断のほか技能表現、態度も含めた講義は必要である。学習到達度の自己評価の項目では、平均値4.0～4.4点(10項目全てにおいて4.0以上)であり、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 受講動機は、「必須科目である」が100%、「資格取得に必要である」が30.8%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に取り組んでいた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性については問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>短時間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めていった。「授業の質の評価」では、5つの項目すべてにおいて、平均値4.3点、中央値4.0点の評価を得ることができた。「学習量の評価」では、93%以上の学生が30分程度以上の予習(準備)・復習を行っていた。自由記載の中に「友人と一緒に振り返りを行った」との記載があり、同じ目標に向かって頑張る仲間との間でグループダイナミクスが働いていることも評価できる。「学修のための情報利用」では、87%の学生がシラバスを参考にしており、56%の学生が授業の計画を立てている。「図書館、インターネット利用」では68%の学生が図書間の図書や雑誌を利用している。以上の状況をふまえ、引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。また、学生個々の理解度なども確認したうえで、助産ケアに必要な援助技術を習得できるように援助していきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより、到達度自己評価は、10項目の平均値4.0~4.4点、中央値4.0点より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短時間で集中的に行われる授業の中で、予習や復習を行うなど学生の努力がうかがえる。さらに、学生の思考判断や技能表現が向上していけるように課題を含め、講義・演習の内容等の工夫をしていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度は、机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得すること、および知識や思考をいかして対象に対し適切な技術の提供が行えるために自ら学ぶ能力を養うことを意図し、技術演習において、協同学習方法の一つであるジグソー法を取り入れた。机上の講義では、産褥期の生理・褥婦の変化・産褥経過・支援方法について解説し、教科書を中心に進めた。その後、産褥経過にそった必要な支援について学生が思考判断しながら意見交換する時間を設けた。技術演習では、知識だけではなく、保健指導能力をみにつけられることを意図しジグソー法を取り入れた。課題については、他科目の課題との関連性や提出時期などを考慮し、学生の負担とならないよう心がけた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は86点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。DP別にみると、知識理解に関しては68%、思考判断に関しては89%、態度に関しては100%で、技能表現に関しては90%であった。学生の到達度自己評価や授業の質評価の結果も全員が「そう思う」と答えており、集中講義で時間の余裕は決して多くない中で課題や自発的学習にも取り組んだことが、目標達成につながったと考える。知識理解については他の項目に比べ低い結果となっており、知識理解の向上への工夫が課題である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では平均点は4.0点以上であった。また、DPIにおいてもほぼ標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性があったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度は予習をふまえた知識および思考を活用してジグソー法を用いた方法を取り入れた。その結果、対象へケアを提供する方法を自ら思考・判断し実践することの難しさを実感するとともに、その方法について理解が深まったと思われる。また、課題については、範囲や量を他教科の課題との関連をふまえてできるだけ学生の負担とならないよう配慮した。その結果、授業の質の評価では「そう思う」という回答がみられ、図書館を活用しながら、学習量もほぼ全員が「予習に取り組んだ」という結果につながったと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>全員が目標に達することができていた。到達度自己評価や授業の質の評価においてはほぼ全員が効果的であったと回答している。また、図書館や教科書以外の資料も活用できており、課題の内容を検討したことが関連していると考え。協同学習を取り入れたことは、自ら課題に取り組み知識理解力や思考判断力の向上につながった要因の一つであると考え。DPIにおいて知識理解については他の項目に比べ低い結果となっており、知識理解の向上にむけた講義内容の工夫が課題である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産診断・ケア学については学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」33.3%、「関心のある内容である」「単位数を確保する」がともに6.7%であった。本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。</p> <p>②例年同様、講義資料作成の工夫を継続して行った。技術演習(医師が担当)では、全学生が縫合の技術を経験できるように、物品の準備や配置、適宜指導が受けられるように配慮している。CTG判読においては、産婦人科ガイドライン、ハンドブックを用意し、ガイドラインに沿った演習ができるように配慮した。</p> <p>③実習を考慮し、知識・技術がケアの実施に結びつくように、助産ケアに関する内容についても、講義を行った。また、実習で経験するであろう疾患に関するテーマを課題として提示し、ケア計画のレポート作成を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点は75点であり、再試対象者は0名であった。標準レベルに達した学生は9名、理想的レベルに達した学生は4名であった。科目が「周産期のハイリスク」は、疾患についての講義がほとんどであった。正常からの逸脱(異常)について判断、説明ができることを目標としているため、講義内容の専門性は高い。母性看護学の知識を基盤に、並行して学習する助産の実践領域である専門科目「助産診断・ケア学Ⅰ～Ⅳ(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)」と関連付けて学習することが必要である。DPの目的別にみると、知識理解、思考判断は75%、技能表現は75%の達成度であった。</p> <p>学生による授業評価の到達度自己評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点、技能表現の観点での自己評価について、平均値は3.6～4.1点。中央値は4.0点。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」のみ平均値が3.6点であった。これは、専門性が高いため講義中心の授業であることが影響していると考えられる。学習量の評価の予習・復習時間において、「授業に参加するために30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」で「1～6回」と回答した学生は、94%、「授業を振り返るために、30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「1～6回」と回答した学生は94%であった。正常逸脱に関する内容の講義において、疾患や治療について理解するためには、予習・復習が必要であると考えられる。このことが目標達成にも影響していると考えられる。</p>
--	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であり、必須である。学習到達度の自己評価の項目では、平均値3.5～4.1点(3項目において4.0以上)であり、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみても内容的妥当性 受講動機は、「必須科目である」が100%、「資格取得に必要である」が31.3%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に取り組んでいた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮した。「授業の質の評価」では、5つの項目において、平均値3.8～4.1点、中央値4.0点の評価を得ることができた。「学習量の評価」では、94%以上の学生が30分程度以上の予習(準備)・復習を行っていた。授業以外に学習に取り組んだ学生は37%であった。「学修のための情報利用」では、75%の学生がシラバスを参考にしており、31%の学生が授業の計画を立てている。「図書館、インターネット利用」では19%の学生が図書館の図書や雑誌を利用している。以上の状況をふまえ、引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。また正常領域の科目の授業も並行しているため、相互に関連付けながら学習していけるよう配慮する必要がある。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は助産の実践領域の専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより、到達度自己評価は、10項目の平均値3.6～4.1点、中央値4.0点、また成績より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、94%の学生が予習。復習を行っており、学生の努力がうかがえる。さらに、疾患や治療など正常逸脱について理解するためには日々の予習・復習が必要であり、学習量を確保することは常に必要である。今後、学生が学習時間の確保ができるように他教科と調整を図るとともに、正常領域と関連付けて学習していけるよう工夫していきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
総合看護学	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度は、学生が達成すべき行動目標2に関して、協同学習における話し合いスキルの基本といわれる傾聴とミラーリングの手法を追加し、学生の観察力・情報収集能力のスキルアップを目指した。また、グループワークを中心とした演習を取り入れることで、他者の意見を理解し、さらに自身の意見を他者に伝えることの必要性に気づくことを目指した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は88点であり、再試験対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。DP別にみると、知識理解に関しては89%、関心意欲に関しては87%であった。前半の机上学習において得た知識をふまえ、後半の演習ではグループワークを繰り返し行った。これにより他者の意見を傾聴し、その意味を理解したうえで発言することの必要性に気づくことができ、他者との交流にも関心を持って臨むことにつながったと考える。また、教員が観察対象者となり演習にリアリティ意識したことも、意欲的に学習に取り組む姿勢につながった一因と考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「支援科目」である。選択科目であるが、全ての科目を学ぶ上で必要な看護の機能や役割・倫理規定および看護に必要なコミュニケーションスキルを改めて学ぶことを学生が到達すべき目標に挙げていることから、知識理解を充実させ、関心意欲をもって取り組む姿勢は必要である。到達自己評価では平均点が3.6～4.2点であり、授業の質の評価では平均点3.9～4.4点であり、どちらもほぼ中央値に達していた。また、DP別の得点でも理想的レベルに達していたことから、内容的には妥当性があつたと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度は、傾聴とミラーリングの手法を追加し、学生の観察力・情報収集能力のスキルアップを目指した。また、グループワークを取り入れることで、他者の意見を理解し、さらに自身の意見を他者に伝えることの必要性に気づくことを目指した。その結果、全員の学生が理想的レベルに達することができた要因の一つとなったと考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>全員が目標に到達することができた。到達度自己評価や授業の質の評価においても、全員が効果的であったと回答している。協同学習の手法をふまえたグループワークを行ったことも要因の一つであると考え。今後も、効果的な学習方法を検討し授業に取り組むことで学生の知識理解や関心意欲の向上を図りたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	助産別科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性の運動科学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は必修科目であり、助産別科の学生すべてが受講する。そのため、受講動機を「必修科目である」と答えていた学生が100%であった。妊婦運動の効果に関する研究は、数多くなされてきており(特に海外において)、授業においては、最新の研究結果をより多く紹介することによって、学生の興味・関心を引きつけられるようにした。</p> <p>昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は80.6(±4.9)点であった。成績分布別にみると、89～80点が63%、79～70点が37%であった。全員が標準的レベルに達しており、63%の学生が理想的レベルに達していた。</p> <p>学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が13%、「わりにそうだと思う」が56%、「まあまあそうだと思う」が31%とすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.8)。</p> <p>「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が13～19%、「わりにそうだと思う」が69～75%、「まあまあそうだと思う」が13%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.0～4.1)。</p> <p>その他、「思考・判断(DP2)」、「意欲・関心(DP3)」、「技能・表現(DP5)」、「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値は3.7～4.0であり、すべての学生が肯定的に捉えていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>今回は、該当するDPとしては、「知識・理解(DP1)」のみとなっていたが、この授業では妊婦体験の中で様々なスポーツやマタニティグッズを経験させており、「技能・表現(DP5)」もまた含める必要がある。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価は、すべての項目とも平均値が3.7～4.0であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。しかしながら、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習・復習をまったく行っていない学生は約44%であった。また、授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生の割合は約63%であった。学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。</p>
------------------------------	--